

電照による7～8月咲き小ギクの開花抑制効果

鈴木安和・宗方宏之

(福島県農業総合センター)

Flowering Controlling Effect of July -to- August Flowering Chrysanthemum
in Light Culture

Yasukazu SUZUKI and Hiroyuki MUNAKATA

(Fukushima Agricultural Technology Centre)

<試験2>1区10株 反復無し

1 はじめに

7～8月咲き小ギクは8月盆の需要期に出荷することが安定的な経営には不可欠であり、近年は電照による開花調節に取り組む産地が出てきている。一方、小ギクは民間育種が盛んであり、多くの品種が育成、販売されているが、電照による開花反応についてのデータは少ない。そこで、現在販売されている7～8月咲き小ギク品種の中から、電照反応が高く、安定的な開花抑制効果の期待できる品種を選定する。

2 試験方法

(1)試験場所

福島県農業総合センター（郡山市日和田町）内
露地ほ場

(2)試験区の構成

試験1 電照時間帯の影響

区No.	電照時間帯
1	20～0時
2	22～2時
3	0～4時
4	無電照

試験2 品種別の電照効果

区No.	試験区	処理方法
1	0～4電照	0～4時までの4時間電照
2	22～2電照	22～2時までの4時間電照
3	無電照	無電照

(3)耕種概要

1)供試品種

試験1 ‘キリン’

試験2 ‘しずく’、‘小鳩’、‘精ちぐさ’、‘精しまなみ’、‘精はぎの’、‘キリン’、‘白舟’、‘ともき’、‘花の舞’、‘精かのか’、‘金時’他計20品種

2)電照方法

100V75W電照用電球（みのり）を3m間隔で地面より高さ1.5mに設置した。照度は50ルクス以上とした。電照処理期間は摘心時（試験1は2007年5月2日、試験2は2009年5月7日）から6/18までとした。

(4)調査株数

<試験1>1区10株 2反復

3 試験結果及び考察

(1)電照時間帯の影響

1)電照時間帯を20～0時、22～2時、0～4時で検討した結果、開花抑制効果が高いのは0～4時であり、他の電照時間帯よりも咲き揃いが良くなった（図1）。

(2)品種別の電照効果

1)7～8月咲き品種では、0～4時電照は22～2時電照に比べて同等またはそれ以上の開花抑制効果があった（図2）。

2)0～4時電照によって、開花期が一週間以上抑制された品種は‘しずく’、‘小鳩’、‘精ちぐさ’、‘精しまなみ’、‘精はぎの’、‘キリン’、‘白舟’、‘ともき’、‘花の舞’、‘精かのか’、‘金時’であった（図3）。電照による開花抑制効果は、品種間差が大きいため品種選定が重要であると考えられた。

3)電照により切り花長が有意に増加した品種は‘しずく’、‘小鳩’、‘精ちぐさ’、‘精しまなみ’、‘精はぎの’、‘キリン’、‘白舟’、‘ともき’、‘花の舞’、‘精かのか’、‘まおみ’、‘舞人’であった。特に、電照による開花抑制効果の高かった‘しずく’、‘小鳩’、‘精ちぐさ’は150%以上に切り花長が増加した。（図4）

4 まとめ

8月盆の需要期出荷を目標とした7～8月咲き小ギクの電照方法の検討及び開花抑制効果の高い品種の選定を行った。

7～8月咲き小ギクにおいて電照時間帯を20～0時、22～2時、0～4時で検討した結果、開花抑制効果の高い時間帯は0～4時であり、22～2時と同等以上となった。また、0～4時の電照で、開花期が一週間以上抑制された品種は‘しずく’、‘小鳩’、‘精ちぐさ’、‘精しまなみ’、‘精はぎの’、‘キリン’、‘白舟’、‘ともき’、‘花の舞’、‘精かのか’、‘金時’であった。電照による開花抑制効果は、品種間差が大きいため品種選定が重要である。

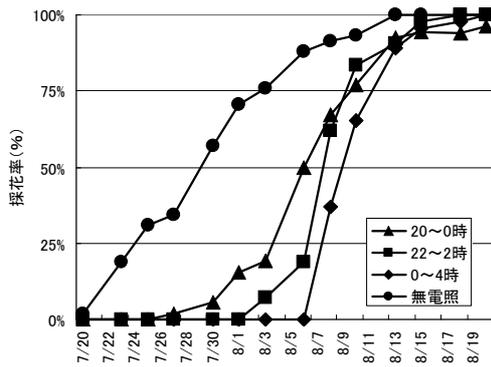


図1 電照時間帯の違いが開花に及ぼす影響 (2007年 品種'麒麟')

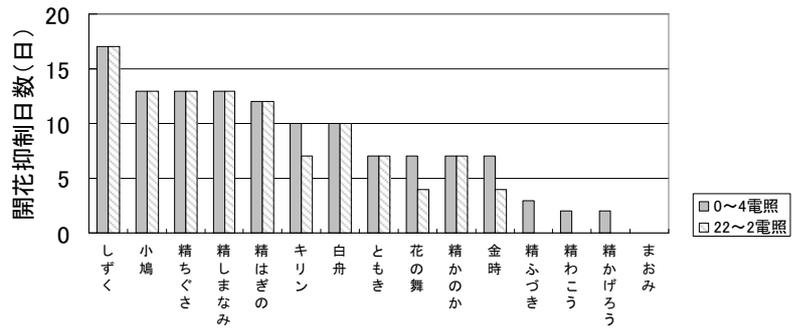


図2 電照時間帯による開花抑制効果(2009年)

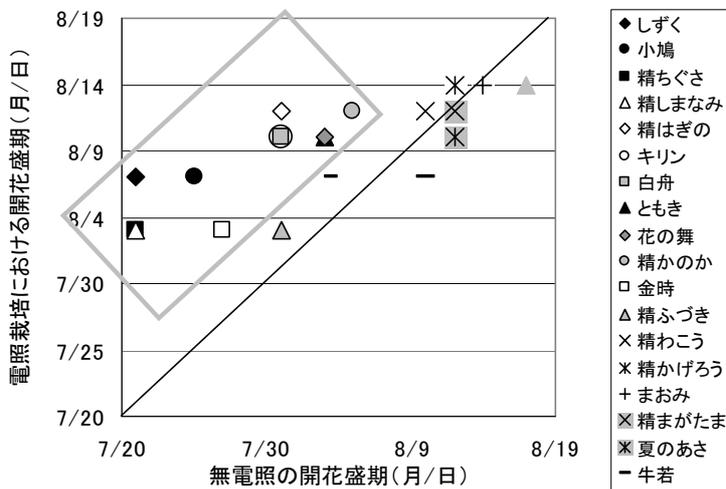


図3 電照による開花盛期への影響(2009年)

注1) 枠は7日以上開花が抑制されていることを示す

注2) 電照は0~4時の4時間

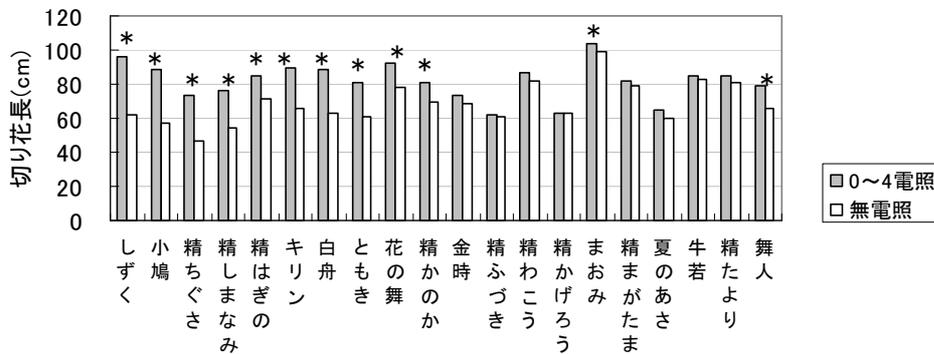


図4 電照による切り花長への影響(2009年)

注)*: t検定により5%水準で有意差あり